



令和3年11月(220)

医院だより

秋山医院
藤岡市小林748-8
☎0274-22-8315

十一月 別名 霜月(しもつき)・建子月(けんしげつ)・仲冬(ちゅうとう)
霜が降りる月、霜月、なんとも素直な命名。

『十月の花』

山茶花、石路(つわぶき)、蝦夷竜胆(えぞりんどう)、柊(ひいらぎ)、菊、磯菊(いそぎく)、竜胆菊(りゅうのうぎく)、背高泡立草(せいだかあわだちそう)

参考 鈴木充広著「暮らしに生かす旧暦ノート」河出書房



石路(つわぶき)

目次

- 1 十一月の異称、十一月の花、十一月の言葉
- 2 十一月の暦、お知らせ、
- 3 発熱受診・相談センター(群馬・埼玉)
健康テレフォン
- 4 日野原先生語録、
大岡 信「折々のうた」
けんこう(144)
- 8 院長のひとりごと(190)

『十一月の言葉』

与えよ。そうすれば、自分にも与えられるだろう。

人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなた方のふところに入れてくれるであろう。

あなた方の量るその量りで、自分にも測りかえされるであろうから。(ルカ伝六・三八)

慰められんと欲するものは慰められない。慰めんと欲するもののみ慰められる。助けられんと欲する者は助けられない。助けんと欲する者のみ助けられる。教えられんと欲する者は教えられない。教えんと欲する者のみ教えられる。主の言いたまえるがごとし。すなわち「なんじら、人に与えよ。さらばなんじも与えられるべし……なんじらが人の量るところのその量器(はかり)をもて、なんじらは人に量らるべし」と。自己の弱気のみ悲しみ、自己の不足をのみ、かこち、自己の

痛みのみを感じて、ただひとえに人に慰められんと欲し、助けられんと欲し、導かれんと欲する者は、いつまで待つても、慰められず、助けられず、導かれないのである。慰められんと欲するか、自ら進んで、自己よりも不幸なる人を慰めよ。助けられんと欲するか、自己より弱き人を助けよ。教えられんと欲するか、自己よりも愚かなる者を教えよ。まず与うるにあらざれば得る能わず。人を量るその量器をもって量らるべし。

内村鑑三著「続一日一生」十月二十日

『十一月の暦』

- 一日 灯台記念日、計量記念日
- 三日 文化の日、明治神宮例祭、映画「ゴジラ」（一九五四年）
- 七日 立冬
- 八日 世界都市計画の日
- 九日 太陽暦採用記念日
- 十一日 世界平和記念日
- 十五日 七五三、坂本龍馬暗殺（一八六七年）
- 十七日 将棋の日
- 二十一日 近松忌
- 二十二日 小雪

二十三日 勤労感謝の日（旧新嘗祭）富士山

大噴火（一七〇七年）

二十五日 憂国忌 昭和四十五年自衛隊

東部方面総監部に乗り込み、劇的な最期を遂げた三島由紀夫没

二十八日 親鸞聖人忌

参考 令和3年神宮館運勢暦（神宮館）

暮らしの歳時記365日『今日は何の日か？』（講談社）

お知らせ

一、保険証の提示について

月の最初の受診時には、受付に保険証を提示してください。

二、診療案内

- 一般外来診療・往診・在宅医療
- 禁煙外来
- 骨粗鬆症の検査・治療
- ピロリ菌有無の検査と除菌
- CT、MRI、PETの予約
- 胃カメラ（二十年九月より再開）・大腸カメラ（現在は休止）
- 肺炎球菌・带状疱疹ワクチン
- 発熱対応 四月以降も継続中

三、当番医・十二月十二日（日）

九時から十八時まで

四、外来の予約診療の一時休止について

外来の混雑でご迷惑をおかけしています。待ち時間を減らす努力はいつも心がけてまいりましたが、コロナ災禍のため、発熱外来、コロナワクチン接種を主にして、藤岡での蔓延を抑え終息に導けるよう、他の医療機関とともに務める必要があります。外来予約制は一時休止いたします。体調が極めて優れない方は直接窓口へ声をかけてくださるようお願い申し上げます。

五、発熱外来 現在も継続しています

一般の慢性疾患で通院されている患者さんと分けて（動線を別にして）診療することが必要なため以下のように診療します。

・ 発熱・風邪症状がある方はまずお電話いただき、医院の案内に沿って待機してください。

医院の電話 0274-22-8315

発熱外来対応時間と、予約時間は次の通りです。

予約受付時間	午前	午後
月、火、水、金	8:30-12:00	17:00-18:00
木、土	8:30-11:00	なし

発熱外来	午前	午後
月、火、水、金	12:00-13:00	17:00-18:00
木、土	11:00-13:00	なし

変更になります！

☆十一月三十日まで

藤岡市コロナワクチン予約センター

0277・2226・50265

藤岡市コロナワクチンコールセンター

0277・2112・02666

☆十二月一日から

藤岡市コロナワクチンコールセンター

0274・40080224

次の機関でも受診についての相談ができます。

群馬県受診・相談センター (24時間対応)	0570-082-820
前橋市受診・相談センター (午前8時30分～午後9時)	027-220-1151
高崎市受診・相談センター (平日 午前8時半～午後5時15分) 前橋・高崎とも時間外は県のセンターへ	受診相談 027-381-6112 一般相談 027-381-6112
埼玉県新型コロナウイルス感染 県民サポートセンター (24時間受付)	0570-783-770
ぐんまコロナワクチンダイヤル (副反応など の相談) 無休、24時間、20か国語	0570-783-910

六、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

電話〇二七―三三四―四九七〇

<http://www.raijin.com/kenko/>

月	リウマチと免疫
火	月経痛と出血量
水	歯とジュースとおやつ
木	採血なしで24時間血糖測定
金	毛染め
土日	夜尿症って何歳から？

七、インフルエンザワクチン接種について

☆10月25日(月)から受付開始、

☆11月01日(金)から接種施行中

八、第3回目のコロナ感染予防ワクチン

接種については情報が入り次第広報いたします。市などの広報をご覧になってください。

感性をはぐくむ 日野原重明

人間の感性が成長するか否かは、人との出会いによる。出会いは、私たちが後天的に獲得する財産である。一所懸命に働けば、いくばくかの財は築くであろう。しかし人との出会いはどれほど多くの無形の財産を得るだろうか。

日野原重明著「いのちの言葉」

秋鶏(どり)がみてゐる陶(すえ)の玉子かな

飯田蛇笏

「陶の卵」はいわゆる偽卵(ぎらん)のこと。鶏卵そっくりの焼き物で、昔は時々鶏舎などに置かれているのを見かけた。土地によって置き卵とか種卵ともいった。鶏の産卵や孵化の際、本物の卵を取りあげても、これとすりかえておくことで鶏を不安にさせないようにしたものだという。蛇笏邸の庭で飼っている鶏が、秋の日を浴びて偽の卵をじつと見ている。わけもなくおかしい。「あはれ」もある。

大岡 信 新折々のうた1 岩波新書

けんこう (百四十四)

新型コロナウイルス肺炎(感染症)(14)

はじめに

2019年12月31日、中国湖北省武

漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症は、数か月で世界各地に感染が広がり、あと少しで2年になります。

これまでの経過について、十一月十二日の読売新聞で、国立国際医療研究センター国際感染症センター長、大曲貴夫氏が記事を寄せていたので箇条書きに記しておく。第1波から第5波までの経験で何が問題となり何が解決に寄与したか、第6波の起きる可能性が高い中で国としての対応は何を焦点とすべきかについてまとめであり、理解しやすい。

1. 流行は2020年1月に始まり、日本国内での累計感染者数は170万人、死者数は1万8千人を超えた。

2. これまで5度にわたる感染拡大の波を経験した。

3. 未知の感染症で防止策・治療薬も分からなかった第1波は医療現場にとっては非常に厳しい時期であった。

4. 感染予防に関する国内外の知見の蓄積と治療薬の増加で対応の仕方が分かってきたが、第3波で痛感したのが病床逼迫(ひっぱく)の問題だった。治療方法が確立されつつあった状態においても、患者に医療が届かない事態になり、特に今年6月以降の第5波下の東京では自宅療養中に亡くなる人が相次いだ。

5. 8月のピーク時には、1日当たりの都内の感染者が50000人を超え、自宅療養者は最大時で2万5千人、入院先などの療養先が決まらない患者も1万人を超えた。制御不能な状況にあり、災害レベルで感染が猛威を振るう非常事態に陥った。幸い国民のワクチン接種率の上昇とともに感染者数は激減している。

6. 一方、病床数の逼迫で他疾患の患者さんも重症化してから病院に運ばれて来たため、治療期間が長くなり、さらに新たな患者の受け入れが

困難となる悪循環に陥ってしまった。

7. 国は、第6波に備え、コロナ病床を増やすことを考えているが、それを上回る大流行が起これば非常事態に陥ることは明白である。

8. 非常事態に陥る前に感染拡大をいち早く抑制する対応を立てておくことが重要である。

9. 新たな感染への対応とともに重要なのが、倦怠感、味覚・嗅覚異常など後遺症の問題である。国際感染症センターでの調査では、感染者の4人に1人、1年後も約1割に何らかの後遺症が残っていた。後遺症の有効治療法がまだないことも考えて、感染しないことが最良の予防策となることを再確認すべきである。

1 世界と日本、群馬県の感染者数

(死亡者数) (十一月十一日現在)

1か月前からの変動も併せて示す。報道機関により数字の異動あります。

世界

2億3757万8162人

(484万7462人)



2億5194万1758人

(507万9990人)

米国

4429万0093人

(71万2695人)



4685万2276人

(75万9676人)

インド

3393万5309人

(45万0375人)



3441万4186人

ブラジル

(462,690人)

2155万0730人

(60万0425人)



2192万4598人

(61万0224人)

日本

171万0112人

(1万7930人)



172万4790人

(1万8323人)

東京都

37万6716人 (2594人)



38万1900人 (3158人)

大阪府

18万5290人 (2847人)



埼玉県	20万2851人 (3056人)	⇐	11万5213人 (1014人)
群馬県	11万5698人 (1050人)	⇐	1万6645人 (173人)
前橋市	1万6821人 (176人)	⇐	2451人 (27人)
高崎市	2456人 (29人)	⇐	2378人 (14人)
藤岡市	344人	⇐	2384人 (14人)
伊勢崎市	344人	⇐	3050人 (17人)
太田市	3087人 (17人)	⇐	2936人 (?人)
	2986人 (1人)	⇐	

2. 個人でやる予防

個人がやるべきことはたくさんあります。

A 3密(密集、密接、密閉)機会回避を基本に、**手洗い、睡眠、栄養、運動**など個人の

問題として対応をとること

〈お問い合わせ先(個別・集団接種とも)〉

A 健康福祉部 健康づくり課 新型コロナ
ナウイルスワクチン接種係

TEL:0277-422-1211(代表)

B 藤岡市コロナワクチン相談コールセンター

TEL:0277-212-0266

C 副反応などワクチンの専門的な相談先

ぐんまコロナワクチンダイヤル

0570-783-910

土日・祝日を含め24時間、20か国語で対応

D コロナワクチン接種は、10月で終了しました。11月8日以降に接種を希望の方はくすの木病院、篠塚病院、光病院、鬼石病院その他で(広報ふじおか11月2日号2ページ参照)

3. 早期治療に関して

新型コロナウイルス感染症にかかっていないか調べてほしい時

① 発熱等の症状のある方は、まずは、かかりつけ医等の身近な医療機関に直接、電話相談し、受診してください。

② 診察をした医師によって、感染が疑われると判断された場合には、新型コロナウイルス感染症の検査を受けることができます。

③ また、相談する医療機関に迷う場合には、「受診・相談センター」に電話してください。(本誌、2ページの「お知らせ」の五を参照)

4. 病院としての対応の現状

① 2020年9月から再開された胃癌検診では内視鏡検査中の感染防止対策に沿って対応している。

② 一般患者さんとの動線が重ならない対策

例 ① 発熱者は院内に入らない

② 診察は院外で、主に乗用車内での診療(問診、検体採取、薬剤・処方箋の発行)となります。かかりつけの患者さんには、電話での診

察・処方箋発行もあります。

③ 夏期テントの用意

④ 軽い発熱、風邪症状の方は、1、2日間、家で過ごし、軽快しない、または症状が強くなるようであれば来院していただきます。

⑤ 来院前に必ず医院に電話をして、指示を受けていただきます。

⑥ 家か車内で待機していただきます

⑦ 可能な限り携帯電話を携帯してください。携行できない場合は玄関扉の左側手前にあるインターホンをご利用いただき指示をお待ち下さい。

⑧ その他

5. 新型コロナウイルス感染症に

ついて(整理)

(1) 症状

37、5℃程度の発熱や呼吸器症状が1週間前後続くこと、強いだるさ(倦怠感)、のどの痛み、筋肉痛、嗅覚・味覚障害など

(2) 重症化しやすい人

高齢者や基礎疾患がある人など

(3) 自分でやれること

3密(密集、密接、密閉)を避ける

栄養 感染に対する防御として重要

運動 免疫力向上

(4) 発熱やせきなど比較的軽い風邪の症状が続く人は次のように。

① かかりつけ医に連絡して指示を受ける方法

イ. 自宅待機の指示

(症状軽く解熱剤で対処できるとき)

ロ. 時間を指定し来院し、車内で待機していただく場合

② かかりつけ医がいない場合

(一般的な相談の場合)

(前記、2ページ、五参照)

6. 医療機関に入る前に

・ 37℃以上の発熱がある方は基本的には院外対応。

・ 咳、くしゃみ、のどの痛みなど風邪症状のある方も、同じ対応です。

○ 院内に入る前に、電話で医院受付に連絡してください。

○ 携帯電話をお持ちでない方は、玄関にあるインターホンで連絡してください

○ 医療機関に入る際にはマスクを着用するほか、手洗いや咳エチケット(咳やくしゃみをする際に、マスクやティッシュ、ハンカチ、肘を使って、口や鼻をおさえること)の徹底をお願いします。

7. インフルエンザワクチン接種について

10月25日(月)から予約開始、
接種は十一月から開始していきます



院長のひとりごと(百九十)

高窓二題



弥三郎婆さ

◇つまらぬことで意気地なく泣いていると、

「弥三郎婆(ば)あさが、攫(さら)っていくぞ」

と、母は脅した。なんだかわからないがすごく怖そうであった。さらには、

「弥三郎婆さが窓から入ってきて、攫って行って、食っちゃまうぞ・・・」
と言われた。攫って逃げていく出入口の

決められると、現実味を帯びた話になり、さらに怖さが増した。

◆雪国の古い作りの農家では、一階建ての天井が高く、障子の引き戸のさらに50—60センチ上方にもう一段窓が作られていた。積雪時の明り採りに使われたり、時には、排煙口の役割もしていた。六尺棒という太き一寸(約三センチ)真四角で、長さ百八十七センチの棒が置いてありそれを使って、下から窓を押し開けたら、閉めたりするとき利用していたが、しよつちゆう開閉する所ではないから滑りが悪くなっている、父や兄が上手に操って開け閉めをしていた。下の障子は外側にもう一枚板戸があるが、高窓にはそれがないので台風が来るときには家の外庭から高窓の下方にある小屋根に梯子を立てかけ、父が窓の外側に板を金槌で打ち付けた。台風で窓が破られてしまったら、風が吹き込み屋根が下から持ち上げられ、そのまま持つていかれてしまうからと聞いた。

◇準備が遅れ暴風が来てから仕事を始めて屋根から吹き飛ばされたという村人はなしもあった。

窓に使われている曇りガラスの向こう

に、普段は見えない人影が映り、普段は聞こえない上方から槌の音が聞こえてくる違和感に家内には緊張感が増して来る。

◆普段は一緒に行動しない父の義母もやってきて家族みんなで茶の間に集まって固まっていた。その時の連帯感が私には快く、それではしゃぎだすと

「おきようすき！」

と、母や兄姉から叱られた。

「お奇様好き」|| 普段と変わったことがあることを喜ぶ、の意味か、あまり他では聞かない「方言」であった。

◇弥三郎婆さの伝説は、新潟県弥彦の

伝説で、息子夫婦が仕事に出かけ、孫のお守りをしていたおばあさんが、あまりの孫の可愛さに頬にかみついて食へてしまい、驚いて子供を抱えたまま高窓から逃げ出し、弥彦神社の杉の木に住み着いたという話であり、全国各地でいろいろなバリエーションが加わり、「泣く子」を諫めるために使われていたようである。

◆「弥三郎」は青森では「弥三郎節」という超一級の嫁いびりの唄が有名だが、そんなこともあり、私のイメージの中では好きになれない名前が一番だった。ところが、予備校で国語を教えた先生が、慶応大学文学部教授池田弥三郎先生の話に及んだとき、池田先生が学生時代に「源氏物語」の論文を書き、提出の日、下宿に後輩を集め、なんと、トラック一台分の論文を提出したという話を聞いて「なんとすごい人がいるものだ」と圧倒されてしまった。以来「弥三郎」の名は私の中で名誉挽回、復権した。

◇鬼女となってしまった弥三郎婆さについて、愛情が過ぎた話とも聞こえて、婆さんの気持ちを考えると一面、気の毒に思われて晴れ晴れとしなかったが、同じ思いがその時代の人にもあったのだろう、婆様は神様に諭され改心して天女として祀られたという後日談も伝わっていることを知って、ホッとした。

妙多羅天女像 個人蔵



妙多羅天女像 宝光院蔵



「新潟文化物語、新潟の奇談」より

蝙蝠(こうもり)

◆私が小学低学年のころ、食事という大家族一人一人が箱膳を持ちよって四角に並べ、父親を正面に、向って右側に母、姉など女性が座り、ご飯や味噌汁、煮物の盛り付けをして各々の席に配った。左は祖母、次いで男性が長男から順に並び、

末っ子は上座の列の一番端か、または丁度、父の正面に当たる位置に座ることになった。

◇箱膳の中にはご飯茶碗、汁茶碗、お箸一膳、が入れてあり、蓋は裏返すと個人用の飯台となった。食事が終わるとそれぞれが湯水を飲んでそのまま箱の中に並べて戸棚に戻した。

◇夕飯を食べていると、サッと目の前を黒い影が横切った。

「あ、蝙蝠だ」

こんなことが数回あった。今どき夕方見る、空をせわしく飛び回っている種類よりも数倍大きなもので、両手を広げると50センチ以上もあるかという飛翔体が天井すれすれに飛んで、天井が高い茶の間の方に逃げ込んでいったことがあった。

◆こんな時にたまたま高窓が開いていればコウモリはそこから外へ逃げていくのだが、閉じていることが常の窓だから、この日も出られず焦って飛び回っていた。

◇高校を出ても女性がゆえに上の学校に行けなかった長姉が家にいたところで、母と一緒に家事一般を行い、父とは外の仕事、とりわけ、山での木の伐採から芝刈

りをして、男子のように活躍してくれていた。

◆ 姉はこの時立ち上がると六尺棒を持ち出して高窓のほうに歩いて行った。窓を開けて蝙蝠を逃がしてやるのかとみんなが思っていたら

「グツン」

と棒を板に突いた音がして、続いてキーキーと鳴くコウモリの声が聞こえてきた。そのまま摺んで前の川まで歩いていき、捨ててきた。

「キーキーと鳴いて流れていった」

「……」

男が4人いたが誰も立たなかった。

◆ この姉は、祖父が目をかけてかわいがった。男勝りのところが、筋の通らぬことを言う人を極端に嫌った。父も母も一目置いて家の中の重大事の決定には姉に相談することが多かった。

◇ こんな強かった姉が、嫁いでからの人生では実に弱弱しかった。それは長い間、疑問であった。しかし姉の弱さは理不尽を攻撃する弱さで、理不尽に耐える強さは強靱であり過ぎた。そんな境遇に、私が疑問を呈したことがあ

った。

お前に分かることかと軽くあしらわれた。

◆ 亡くなる3日前に雪の金沢を訪れた。

『病室がナースセンターの近くに移されたから、もう私も長くはないのだろうな』といった。意味の分からぬ小さな点滴瓶が頭上にぶら下がっていた。

『おまえの言う方が正しかったかもしれないなあ……』

と、返事を求めるでもなく姉がぼつんと言った。

◇ 帰ろうとして私が病室のドアを閉めながらベッドの上の姉を見た。姉は顔を上げて見送らず、ベッドの上で背中を丸くして虫眼鏡で数日前の新聞を読んでいた。私たちの訪問でさっき中断した新聞の続きである。これが姉との最後となろうともどう仕様もできない。これが最後と分かっている、さりとて何かやってあげられることはない、と悟るそんな瞬間が人生にはあるのだ。

ドアを閉めた。

◇ 3日後、金沢に住む甥から 姉の急死が伝えられた。

食道がんが破裂したのだからどんなにか苦しかったことだろう、しかしそれも医者ややってきて点滴を落とせば痛みも意識もこの世のことも、みんな無くなる。この姉に、それまでのこと、生まれてきたことを感謝して去って行ってくれ、とはとても言えない、でも最後にひとこと、そう言ってほしかった、そのうえでこの生の世界から去って行ってほしい。あちらの鉱物の世界に行ってしまったら、どんな交流も未来永劫できなくなるから。

帰省した折、高窓を見る。数年前にサツシに取り換えたがこれが伝える時代時代の記憶は私の頭の中にはつきりよみがえってくる。

